



新年度のご挨拶

皆様には、日頃より当所の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大は、全国的には緩やかな減少が続いているものの、宮城県・仙台市においては高止まりの状況で、特に感染が学校、保育所、高齢者・障害者施設等で増加していることが懸念されます。

当所におきましては、感染拡大防止策に十分留意しながら、これまで通り訪問や来所相談、サロン開設を行っておりますので、不安やお困りごとがある時は遠慮なくお電話などでご相談下さい。

仙台市におきましては、昨年度から「基幹相談支援センター」主催の支援困難な事例等に関する合同ケースレビュー・事例検討会が本格化しておりますが、各種研修会や自立支援協議会の諸活動が創意工夫を凝らして活性化することを期待したいと思います。

さて、現在、厚労省社会保障審議会障害者部会において、障害者グループホームに関する議論が行われています。主たる議論は、中軽度者を対象として一定期間内に一人暮らし等へ移行させる「通過型」と、重度者・高齢者を対象とした「従来型」に分離するものです。主な導入の理由として、“一人暮らしを望む利用者が一定数いるがその実現に向けた支援が不十分”とのことで、また、支援力の乏しい事業者の参入や設置数の増大等が背景にあるようです。

しかし、グループホームはあくまで「住まいの場」であり、有期限の設定がなじむのか、甚だ疑問です。以前から先行実施している東京都においては、期限内に退所させる視点から「障害程度の軽い方のみ利用」「利用料を高く設定する」等の運営が横行し、一方で多くの利用者が期限内に退所することへの不安を抱えているという実態があるそうです。

自立した生活への第一歩としてグループホームでの生活を希望する方も多くなっており、宮城野区自立協でもグループホーム事業者との連携の在り方が議論されていますが、これからも国の動向に注目していきたいと思います。
今年度もご指導並びにご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

令和4年5月

宮城野雲母俱楽部+らふ 施設長 秋保 明



投稿コーナー

ペンネーム・そらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、だれにても起こり得ることであること、どのように乗り越え今の自分がいるのかを伝えていきます。

【居場所】そらさん No.15

最近やっと自分の居場所と思えるような自助会に入りました。と思ったら個人的なトラブルと体調の悪さが続き、思うように通えませんでした。

自助会とは心を癒す所だと思ったのですが出席率の悪さを指摘され、理由を述べても理解されませんでした。

少しでも出席できたら良しとする考えではなく、排除される方向になり泣きたい気持ちで帰りました。行動の背景になぜ、と問い合わせ、寄り添おうとする気持ちはどこでも大切ではないかと思いました。

そんなに世の中、自助会の数が多いわけではないのですから、一見会の趣旨から外れているような異端者に見えて、受け入れていく場所があれば多くの孤独な心が救われていくのではと思います。

職員紹介

川原 徳子

はじめまして。私は川原徳子と申します。岩手県の雪深い内陸にある地域活動支援センターで定年を迎え、縁あって宮城県に引っ越してきました。昨年10月から+らふで働いています。相談支援事業所の仕事は初めてなので先輩職員にアドバイスをもらっています。コロナウイルスの影響が落ち着いたらサロンでみなさんと会えることを楽しみにしています。今後ともよろしくお願いします。

相澤 佳奈

はじめまして。4月1日から宮城野雲母俱楽部に勤務することになりました 相澤佳奈です。

以前は、同法人の就労継続支援B型でもあり、高齢者の通所介護事業所(デイサービス)でもある「南光だい雲母俱楽部」に勤めていました。主に高齢者の介護事業を行っていたので、相談支援に関わることは初めてで、分から ないことが多いのですが、少しずつ学びながら努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

おしらせ

5月21日(土)、23日(月)はサロンをお休みします。

23日(月)については業務の都合上、相談業務もお休みさせていただきます。

ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。

令和3年度 宮城野区障害者自立支援協議会の取り組み

①全体協議会

宮城野区では高齢者も障害者も安心して暮らすことのできる地域づくりのために、平成30年度より「宮城野区地域ケア会議」と「宮城野区障害者自立支援協議会」を合同で開催しており、令和3年度は令和4年2月に書面開催しました。

②実務者ネットワーク会議

1.全体会

コロナ禍に伴い、心身ともに疲弊している方が多い事から当事者の方も支援者も笑顔で健康に過ごせるよう「コロナ禍での当事者と支援者の健康を考える」をテーマに、仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぽーと仙台）の精神科医 大類真嗣先生にメンタル面のセルフケアについて教えていただき、仙台市健康増進センター 運動指導員青柳和宏先生にスキマ時間にできる体操を一緒に行いながら教えていただきました。

2.エリア会

高砂・岩切エリア

令和3年度はコロナ禍で生活様式が大きく変わり、支援や地域の実情も変化した事から地域の相談窓口となっている「地域包括支援センター」「障害者相談支援事業所」「仙台市社会福祉協議会宮城野区事務所」「宮城野区障害高齢課」が集まり、コロナ禍での相談傾向や支援の現状を共有しました。

高齢分野では、介護予防自主グループなどの活動休止に伴い介護保険サービスにつなぐ事が増え、そのために地域のグループ活動から離れてしまう事。障害分野では、障害特性上、感染対策をとる事が難しい方が周囲とトラブルになってしまったり、対面での支援が減った事により、細かな状況変化に気付きにくい事。社会福祉協議会では特例貸付の申込者であったが金銭面以外での問題が浮上し、支援につながったケースなどが挙げされました。

令和3年度 仙台市障害者自立支援協議会の取り組み

令和4年3月16日に「令和3年度 仙台市障害者自立支援協議会」が開催され、仙台市障害者自立支援協議会の取り組みについて報告と議論がなされました。

①各区の自立支援協議会の活動や地域部会での協議を通じた地域課題解決のための取り組み

・多機関との協働による地域作り

分野を問わず、高齢者、教育、司法など様々な機関と連携を図り、個別支援で生じた課題の解決に取り組む。
障害・高齢・児童の3機関合同での相談会の開催や司法分野の理解促進のための研修の開催など。

・住まいの問題に対する支援体制

地域生活支援拠点の予防的（親亡き後を見据える等）な関わり、グループホームのマッチングや空き状況のタイムリーな情報収集など。

②障害児者が孤立しないための相談支援体制の拡充

・緊急受け入れ機関のネットワーク形成に向けた活動

地域生活支援拠点のコーディネーターが受け入れ施設を個別に訪問し、緊急受け入れにかかる地域課題を共有し、広く受け入れを実施できる体制を確立していく。

・障害者相談支援体制の整備

相談支援事業所の開所に向けた法人へのアプローチや相談のあった法人に対して個別相談を実施。

③人材育成を担保するための研修の確立

・研修の開催

「仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修」（基礎・実践）は、感染拡大防止の観点から「せんだいTube」を利用し、オンデマンド形式で実施。オンデマンド形式の発展等、コロナ禍であっても効果が期待できる研修の検討。